

琉球大学学術リポジトリ

琉球列島産ニシン目魚類稚仔魚の分類，特にサツパ属の1未記載種について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2009-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石森, 博雄, 吉野, 哲夫, Ishimori, Tetsuo, Yoshino, Tetsuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9850

琉球列島産ニシン目魚類稚仔魚の分類,
特にサツパ属の1未記載種について

(Identification of clupeid fish larvae in the Ryukyus with special reference to morphological and genetic aspects of an undescribed species of *Sardinella*)

石森博雄・吉野哲夫

(Hiro ISHIMORI, Tetsuo YOSHINO)

琉球大学理工学研究科海洋環境学専攻

ニシン目魚類は魚類の全漁獲量の 20~40 % を占める水産資源として重要な分類群であるだけでなく、本目魚類の仔稚魚は魚類プランクトン群集においても優占的に出現するため、これらニシン目魚類の仔稚魚を同定・識別することは極めて重要である。しかし、琉球列島を含む熱帯域でのニシン目魚類仔稚魚の研究は不十分であり、その多様性と形態的類似性もあって同定・識別は困難なまま残されてきた。琉球列島は熱帯域の辺縁部にあり、ニシン目魚類を構成する多くの分類群はここを北限として分布する。そのため、琉球列島に分布するニシン目魚類の初期生活史を明らかにし、種の識別法を確立することができれば、熱帯域におけるニシン目魚類の資源学や生態学的な研究のための基礎情報だけでなく、インド-西太平洋域における多様なニシン目魚類仔稚魚の分類に有用な情報を提供できる。

そのため演者らはこれまでも琉球大学所蔵の本目魚類の成魚標本を基に、稚仔魚の同定に有効と考えられる筋節数・鰭条数などの計数形質及び mt DNA 16S 部分塩基配列情報(約 500bp)の両面において、情報の充実に努め、そららの仔稚魚研究への有効性を検討し、より簡便、正確なニシン目魚類稚仔魚の同定手法の確立をすすめてきた。

現在、琉球列島からは 3 科 12 属 20 種のニシン目魚類が知られているが(未記載種と考えられるサツパ属 2 種を含む)、その内、サツパ属の 1 種(便宜上 *Sardinella* sp. 2 とする)については、これまで標本数が限られており、各計数形質の変異幅及び mtDNA 16S 部分塩基配列情報は不明であった。

今回、2008 年 11 月に南城市知念海野の大型定置網から本種標本 13 個体が得られたので、その特徴を報告するとともに、これまでに知られている同属他種と形態形質及び mtDNA 16S 部分塩基配列情報の両面から比較を行った。

また、これまで行ってきた琉球列島産ニシン目魚類稚仔魚分類の現状について総括する。